

## 1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山県立岡山盲学校	指導者名	渡邊 和英
実践場面 (教科等名)	日常生活の指導 生活単元学習 朝の会・帰りの会 (国語、数学、自立活動)	単元・題材名	
学習目標・ ねらい	授業の始めと終わりにあいさつをする。 授業の開始と終了が分かることで、見通しをもち落ち着いて生活ができる。		
対象児童生徒の 実態	視覚部門 中学部2年 1名(全盲の生徒1名) 全盲の生徒。知的障害を合わせ有する。発語はない。		

### 活用の概要

- ① 生徒本人の iPad に DropTap (アプリ) をダウンロードする。(DropTap は中学生まで無料で利用できる。)



- ② DropTap を使って、事前にあいさつの素材を作成する。
- ③ スイッチを押したらクリックできるように、スイッチを iPad に接続する。



- ④ 実際にスイッチを押して、授業の始めとおわりのあいさつをする。

<p>成果や活用の ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題、改善点 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活場面で繰り返し使われるあいさつを理解し、発語のかわりに iPad を活用して相手に言葉を伝えることができたようになった。</li> <li>・ あいさつ以外の言葉も、発語の代わりにタブレットを活用して相手に伝えることができるようになると、日常生活の質をより向上させることができる。</li> <li>・ これまでは、教員の声を毎回録音し直す必要があったが、タブレットを用いることで事前に準備ができ、生徒が待つことなくスムーズに活動ができるようになっている。</li> <li>・ これまでの VOCA と同様、肉声も録音できるので、機械音が苦手な生徒にも対応できる。</li> <li>・ 全ての授業担当で同じようにタブレットを利用してあいさつや簡単な意思表示ができるようにしたい。</li> </ul>
---	---